

平成23年度第2回八幡地域協議会会議録（正規版・概要）

日 時 平成23年5月26日（木）午後1時30分～午後4時00分

場 所 観音寺コミュニティーセンター 第1・第2会議室

出席者（14名）

1号委員 加藤久美 佐藤 訓 後藤清憲 堀 直良 長谷川明子

2号委員 後藤純子 阿曾千一 池田善幸 荒生道博 阿部喜至夫

小松幸雄 高橋知美 池田久浩

3号委員 後藤征四郎

八幡総合支所：支所長 土井一郎、地域振興課長 後藤 修、市民福祉課長 大淵 洋

建設産業課長 阿部幸秀、八幡病院事務長 佐藤 弥

地域振興課 鳴瀬 勉・池田裕子

市民福祉課 佐藤文彦

建設産業課 岡部 修

欠席委員 高橋せつ子委員

傍聴者： なし

1 開 会

2 会長あいさつ

3 会議録署名委員の氏名

4 協議

（1）八幡地域ビジョン（素案）について

5 その他

6 閉 会

【協議の概略及びその結果】

本協議会は第2回会議であり、（1）八幡地域ビジョン（素案）についての議論を行った。

資料を元に事務局で説明し、委員から様々な意見質問が出されたが、資料が膨大で範囲が広いので、家に持ち帰って中身を検討していただき、訂正や追加すべき部分があれば6月15日（水）まで地域振興課に連絡いただくことで委員から了解を得た。

1 開 会

○長谷川明子副会長 これより、第2回目地域協議会を開催します。都合により欠席の委員は、高橋せつ子委員の1名です。会議次第に従いまして、池田会長から、あいさつをお願いします。

○池田善幸会長 今年の冬は大雪だったが、ようやく新緑の季節になった。厳しい冬

を超えると、その分、春の息吹きに感動させられる。今年は地域ビジョンを策定するといった大きな仕事が私たちに課せられている。酒田の元気を八幡から発信させられたらと考えております。皆さんから忌憚りの無い活発な意見をいただきながらまとめていければと思いますのでよろしくをお願いします。

○長谷川明子副会長 会議録署名委員の指名を行います。今回は2番の佐藤訓委員にお願いしたいと思います。佐藤委員よろしくをお願いします。

○佐藤訓委員 わかりました。

○長谷川明子副会長 それでは、協議に入ります。会長が議長となり進めていただきます。

○池田善幸議長 それでは協議に移りますが、概ね2時間位の意見交換と考えていますのでご協力よろしくをお願いします。それでは今日の議題の地域ビジョン(素案)について、事務局から説明願います。

○後藤修地域振興課長

(資料No.1により説明) 第1回目の地域ビジョンの説明が4月14日にあった。その時は地域ビジョンを策定する際の手法、手順を説明させてもらった。6月中に取りまとめをして7月に本所に持っていくことになっている。支所の中の7名のワーキンググループにおいて地域ビジョンの素案を作成したところです。5月24日の情報連絡調整会議にこの素案が示されまして、今日、皆さまに案件ということで出ささせていただいた。このビジョンは過疎計画と違い事業を挙げるのではなく事業に至る経過といったものを掲げていく目標等を載せるものになり、八幡地域の現状や課題等を示すことによって、地域の住民の皆さんが将来のまちの姿について考える契機となることを期待するものである。今まではハード事業しか出来なかったが今回からソフト事業も出来るようになった。毎年1億5千6百万円程の事業が6年間出来る訳だが既に1年経過しており残り5年間で毎年事業が出来るので、このビジョン策定の暁には、以降の地域協議会ではソフト事業について検討していただければと思われる。

～以下、①農林業②商工業③観光④医療⑤福祉⑥教育、文化⑦道路、交通⑧自然、生活環境⑨集落の整備の9項目の内容について現状・魅力と特徴・課題についての説明あり～

それでこれらに対してどういった地域づくりを進めていくのかというのがビジョン(案)になる。八幡総合支所付近には農協、郵便局、銀行、学校等があり道路も南遊佐や東平田から来るのに便利になっており、駐車場は広いし時間も混まないで簡単に証明書等を受け取ることが出来るので、本所に行かないで総合支所の窓口で市民が訪れている。こういったワンストップで出来るような地域が八幡の大きな魅力にもなっている。一方で、人口減少、少子高齢化、経済不況など地域を取り巻く環境は厳しいものになっている。こうした状況に向き合い、より良い地域づくりを進めていかなければならない。地域資源を有効に活用した産業振興と基盤整備、福祉の充実、若者が定住する活力ある

地域づくりに地域の総力を結集して取り組む必要があり、地域の課題や魅力による八幡の地域づくりに向けて6つのビジョンを示したい。①産業の振興②教育、文化の振興③安全、安心のまちづくり④交通整備、交流促進⑤自然資源の保全と利活用⑥集落の整備の以上6つを地域ビジョンとして挙げさせていただいた。

～以下、6項目の内容について説明あり～

(1) 産業の振興（若者にとって魅力のある地域づくり）

5つの柱を提示。①地場産業の振興と就労の場の確保②農業の複合経営化の推進③農工商連携による新規産業、特産品の開発・・・地域づくりビジョンに沿ったソフト事業については、資料4の全国の事例を参考に現在総合支所で検討中だが、こういったものがあるのかというと「農工商連携特産品開発支援事業」④自然資源を活用した観光資源、施設の磨き上げ・・・考えているソフト事業は「観光ボランティアガイド育成事業」及び「観光施設修繕事業」⑤産直活動促進による農業の6次産業化の推進・・・想定されるソフト事業としては「6次産業化推進産直機能強化事業」がある。これらはあくまでも総合支所としての案であり、皆さんからもっと別のソフト事業が良いんじゃないかということであれば、今後、ソフト事業についても検討するので出していただければと思う。

(2) 教育・文化の振興（のびやかで誇りの持てる地域づくり）

3つの柱を提示。①家庭・学校・地域の連携による教育の充実②芸術文化、ボランティアの推進③生涯スポーツの推進・・・やわたY-Yクラブや文化講演会、NHKのクラシックコンサート等を行っているが更に充実させてやってゆきたい。

(3) 安全・安心のまちづくり（いきいきと笑顔が輝く地域づくり）

4つの柱を提示。①安全・安心に暮らせる防災、消防、防犯の推進・・・想定されるソフト事業としては「除雪、雪おろし支援事業」②保健、福祉、医療の連携体制の構築・・・想定されるソフト事業としては「高齢者のつどいと交流促進事業」「配食サービス事業」③健康でいきいきと暮らせる地域福祉のネットワークの構築・・・想定されるソフト事業は「コミュニティー振興事業」④子どもを生み育てやすい環境づくり

(4) 交通整備・交流促進（交流を生かした地域づくり）

3つの柱を提示。①一般国道・県道及び主要市道等の整備促進・・・八幡地域でないが安田バイパスという大きな課題がある。②地域のニーズを踏まえた交通体系の導入・・・大沢と日向コミセンでボランティアによる乗合の運行事業のソフトが出来ないか検討中③除雪機械及び防雪柵等の整備促進

(5) 自然資源の保全と利活用（環境と共生するまちづくり）

3つの柱を提示。①自然環境の保全と利活用を推進・・・想定されるソフト事業として「観光客促進事業」「白旗史朗山岳写真利活用事業」その他、過疎のソフトと離れるが「自然学習体験支援事業」を市のほうで考えている。②市民と行政の協働のまちづくり③環境にやさしい潤いのある生活空間の創造

(6) 集落の整備（地域活動の振興による地域づくり）

4つの柱を提示。①地域おこし協力隊やNPO等のマンパワーの活用・・・想定されるソフト事業として「地域おこし協力隊支援事業」②空き家・空き地の有効利用と移住・定住の促進・・・想定しているソフト事業として「空き家対策事業」③若者の出会いや交流の場づくりの推進・・・想定しているソフト事業として「嫁不足解消事業」④自治会集会施設の整備の支援となっている。

資料2の地域づくりビジョンの概要版ということで、今、説明した内容のがいろいろ

○池田善幸議長　今の説明に関し意見、質問のある方お受けします。

○荒生道博委員　震災から約2ヶ月が経ち、ようやくこれから復興に向けて動き始めたという感じがしますが、避難所に居る人達はプライバシーも無い相変わらず不便な生活を強いられている。南ノ前田に4～5件の空き家がある。古びたい家ではなく、瓦屋根のしっかりした作りの家ばかりである。家の持ち主と交渉して、そういった体育館等にいる人達を入れられないかといった提案を以前したことがある。その時はもう少し落ち着いてからといった返事だった。農家の家は部屋は広いし部屋数も多いので2世帯、3世帯が普通に住めるので直ちにピックアップして対応したらどうかと提案した。その後、この話はどうなっているのかお聞きしたい。鮭川村では、福島県から非難してきた人がきのこの栽培所に雇用されてそのまま住むといった話も聞いている。体育館の床に敷き毛布を敷いて2ヶ月も生活をさせている状態を見ると行政の行動が鈍いという感じがする。いま話した空き家は風呂は使えるし台所も共同で使用できるしガスも使える。行政がまごまごしているうちに未だに不便な生活をしている人達がいるということだ。

○後藤修地域振興課長　親子体育館に福島方面等から多いときで四十数人、最近では13名程が居って、確か今月の20日で避難所を出たということを知っている。八幡地域にも震災から逃れてきた人達がいると聞いている。そのような人達が今後どうしていくのか、民間のアパートとか市・県のアパート等に住んでいる人達にはいろいろな情報提供をやっているところだ。空き家については以前2ヶ月くらい住めないかとの相談を受けて何件か調査をしたことがあった。その結果、ほとんどは物置状態になって住めるような状況ではなかった。県内外からの人達が空き家に住んでもらうためには、修復を行う等のプラスアルファといった仕組みを考慮してソフト事業を進めていければと思われる。

○荒生道博委員　ボランティア団体に依頼して物置状態を整理させるのも一つの方法だ。家が壊れて出ていった訳ではないので、掃除をすれば使える状態だろう。放射能の関係で戻るに戻れない人達もいるが、そういった人達を受け入れようとする体制を取ろうとするかしないかの違いだ。

○池田善幸議長　この問題は、受け入れ側と入居を希望する側の両方が合致しないとなかなか実行できないというのが現状だろう。

○阿曾千一委員　2点ほど申し上げたい。1点目が、経済産業省でソーシャルビジネスといった社会的使命を大切にそこら雇用を生み出そうというものがある。ボランテ

アイデア等に期待するのも理解できるがビジネス的な視点を持って事業を展開していかないと難しい部分も出てくると思われる。途中、予算が削られたりしてやる人がいなくなった場合、だれが継続するのですかといったことになる。そのためにも、きちっとした雇用を含めたビジネスとして取り組む必要性を感じる。2つ目が以前、新潟県の中山間地域を新潟大学の学生と先生が1年間調査したことがあり、地域の人々が自分達で知らなかった視点を学生さん達から体験などを通じて発表があり、それが将来性のあることを発見できたことで地域の人々から喜ばれたことがあった。山形大学農学部や公益文科大学等とタイアップして1年くらい地域に入っていくのも若者との交流も含めて大事なことかと思われる。山形大学農学部の学生の半分以上は女性である。中山間地に関する160名程のレポートを読むと我々が考えられないようなアイデアが多く出てくるし、農業を学びながら将来農業をやりたいといった声も聞こえてくる。遊佐町の地域おこし方式を丸呑みする前に、そのような部分を考慮してやってもらえればと思われる。

○小松幸雄委員 2点程お聞きしたい。商工業の森林資源を活用した製材所とあるが、どの位の活用するレベルまで事務局で考えているのか。木材ペレットの関係では、最上地方が一番進んでいるという話があるが、庄内、酒田の現状はどうなのか。もう1点、一人暮らしの高齢者世帯など買い物難民が増えつつある中、日向・大沢地区のデマンドタクシーの話があったが、もう少し詳しくお聞かせ願いたい。

○阿部幸秀建設産業課長 林業の関係は、木材の活用を図る取り組みが必要だろうということで課題として取り上げている。まだ具体的な段階ではないが、木材の資源は多く持っている地域なので、搬送等の問題も含めていろいろ可能性を探りながら今後事業に取り組んで行きたい。日向・大沢地区のバスについては、八幡地域中心部から日向・大沢地区まで、ボランティアの活用を含めた事業運営の方法もひとつの選択肢であり、今後検討していく大きな課題である。

○小松幸雄委員 日向地区は、橋本から湯の台、大台野まで距離が長く、日向コミセンから八幡の中心部までこれからも交通手段があれば良いと思い質問させていただいた。

○荒生道博委員 除雪を請け負う登録制度はあるのか。単価等を決めて窓口を一本化して組織化する仕組みが出来ないものか提案として申し上げたい。それから、毎年、雪の量には多い少ないがあり、除雪費について雪の少ない年で余った予算を翌年に回すようなことは出来ないのか。

○阿部幸秀建設産業課長 昨年度は記録的な豪雪で除雪費も例年に比べ2～3倍になっている。除雪費は実際の除雪の他に防雪柵の設置や機械の点検料が含まれている。実際の除雪の予算は数回出動するとなくなってしまい、それ以降は補正予算で対応しており、予算が余ることはほとんどなく、足りない分を足していくといった予算の組み方になっている。

○荒生道博委員 今年除雪された集落内の雪が4月中旬まで田んぼに残っていて、その原因は除雪費がなくなり業者を使えないからと除雪したくても出来ない聞いた。

○阿部幸秀建設産業課長 豪雪により地区の割り振りの関係で排雪を少し待ってもらった地区があったと思われる。

○佐藤訓委員 「集落の整備」の空き家の有効利用の関係で、以前、空き家に住みたい人がいるということで、荒町の空き家について住めるかどうか調査したことがあった。実際の処、持ち主は人には貸したくないというのがほとんどだった。空き家の数が九十数件あるとのことだが、実際に貸せる空き家が何件あるのかを提示して対応したほうがよいと思われる。それから、「産業の振興」の中で、「若者にとって魅力のある地域づくり」と掲げているが、はたして本当に若者が魅力を持つものは、何なのかといった原点から調べないといけない。たとえば高校生を持つ四十代、五十代の親からすれば地元には働き口がないので地元で子どもを残せない訳で、そういった原点から考えていかないと、一部の効果しかないのではと思われる。「集落の整備」の中にボランティア団体とか支援隊とか様々名前が上がっているが、若者がいないのにはたして実際ボランティアが来るのかなと感じるので、そういったところに見直しが必要ではと思う。あと「教育・文化の振興」で、今の子どもたちを見ていると、習い事とかスポ少とかで色々なことに時間を取られ忙しいといった状況が多々見られる。そういった子ども達への環境づくりが大切であり、根本的に見直しをかけないと言葉で出しても、それを実行出来るのかとなって、「のびやかで誇りの持てる地域づくり」とあるが長期に渡って存続出来るような内容ではないと感じられた。3～4年の短いスパンでなくもっと長い目で見て、たとえば保育園の子ども達が大きくなった時に「この地域にはこういった活動があったから自分はこの地元が好きなんだよな」といった環境づくりを考えないといけないなと感じました。

○阿部喜至夫委員 「自然・生活環境」の中に集中豪雨時のがけ崩れ等とあるが、今回の震災でも大きな災害があると、今まで積み上げてきた生活そのものが根こそぎ崩れてしまう訳ですが、当地域でいうと荒瀬川、日向川が仮に氾濫した場合、そういった状況が起きるのではと想定されますが、数年前、八幡保育園の子ども達に避難勧告が出たことがあったが、これまで以上に短時間で集中的に雨が降ったときに今の堤防は大丈夫なのか、氾濫した水が堤防を超えるような危険な状態になった場合、はたして打てる手段はあるのか、乱暴な対処の仕方であるが、よその国では住宅を守るために堤防を人工的に決壊させて水を住宅地以外に流すといった地域もあるようなので、この地域でゲリラ豪雨のようなことがあった場合、どのような対処の仕方を考えているのか、あればお聞きしたい。

○阿部幸秀建設産業課長 河川管理の面から話をすると、河川は山形県の管理になっているが、川の水量を想定して計算した上で堤防の高さを決めている。実際に水位が上がってきた場合どうするかとなると危険区域であれば非難要請とか堤防の決壊の恐れがあるところに土嚢を積むとかの応急的な対応しか取れないのが現状だ。支所内でも連携を取りながら対処したい。

○長谷川明子副会長 この間、防災マップが配付になっていたが生活カレンダーに各地区の避難所が載っていない。ゴミの関係はいっぱい載っているがお知らせするためのカレンダーなので多いに利用した方がよい。前の中央公民館の時には「観音寺地区避難所」といった看板があったが現在はその看板が見当たらない。看板を掲げてもらったら防災意識も高まるのではと思われる。

- 後藤修地域振興課長 荒瀬川と日向川の危険水位がわかるものが橋の所にあり、非常時には当然消防団に召集がかかり何メートル以上になったら非難勧告及び各コミセン、自治会と連携する体制になっている。防災マップは、たとえば堤防が決壊した場合、荒町の非難場所が体育館になっていて一部見直し等が必要と思われる。カレンダーと非難場所の看板についても今後検討してまいりたい。
- 高橋知美委員 豪雨時に川に土砂等が流れてくるのは、山が荒れてきたのが原因であり人間が壊してきた自然を根本的に手入れすることが大事である。すべてを天然林にという訳ではなく、ちゃんとした間伐をして人間が利用出来るような森にすることが生き物に対しても住みよい環境になる訳であり、山の手入れに力を入れることで、川の土手を護岸で固めるみたいな昔の考え方でなく、川は川で水路ではないので、川だけで考えるのではなく山の手入れを含めた広い視野で根本的に見直した方が将来的に八幡のために良いと感じたので言わせていただいた。
- 加藤久美委員 この間の震災の際に市条保育園の方から危ない思いをしたと聞いた。保育園が危険な場所である、子ども達が遊んでいる場所が危険な所であると聞いたときになぜこんなに対処が遅いのかなと、そういった防災の対策的なものがなぜ何十年も遅れているのだろうと感じた。それから、幸楽荘のケースで火事等の災害があった場合、まわりの地域の人達が助けに行くといった出来上がったシステムがあるそうで、保育園等でも万が一の災害時で先生達だけで手が足りないことも考えられるので、まわりの地域の人達が応援や助けに行くような組織的なものが活発になれば、常日頃、家に居るような人達を公募して応援隊みたいなものを組織化すれば、保育園の先生達も安心なのかなと思った。
- 大瀧洋市民福祉課長 老人ホーム等で災害時に入所者をいち早く安全な場所に誘導することはまわりの地域の人達の協力がないと出来ないことであり、保育園についても同様に園児の数が多ければ多いほど対応が難しいと思われる。地域の皆さんとの話し合いでそのような協力隊が具体的になれば良いと思う。特に地域の中で高齢者とか一人暮らしで虚弱な方に対し、誰がどこでどう助けるのかといったケースも細やかな配慮がないと出来ないし、様々な場面を想定して計画を立てないといけないなと思った。
- 池田善幸議長 費用をかければそれなりの問題解決にはなるが、簡単にはいかない。結局、地域住民のボランティア的な奉仕的な活動に頼らざるを得ないことになってくる訳ですが、今回の震災で教訓を得たのが、消防団とか民生委員の方など最後まで人の面倒を見た結果、亡くなったといったことがクローズアップされている。そんなことで消防団等の後継者がいなくなるのではといった問題が出てきている。そうした時に酒田市としては、いくらのお金を出すから引き受けてくれないかとするのか、あるいはボランティアということになるのか、いかに地域の力を引き出してまとめていくのが重要なこととなってくるのではないかと感じる。特に過疎地域という現実と直面していると実感する。
- 後藤修地域振興課長 今回の資料について家に持ち帰っていただき、中身を検討していただきたい。訂正すべきところや追加すべき部分があれば、出来れば6月中旬頃まで

地域振興課に検討いただいたものを届けてもらえれば大変ありがたい。それで再度練り直したビジョン案を6月下旬予定の第3回地域協議会にお謀りしたい。

○池田善幸議長 膨大な資料の説明であり今この場ですべてを協議するには無理があるということで家に持ち帰って検討いただきたいとの事務局の提案がありました。家に帰ってから、もう一度目を通していただいて、ここはこうした方が良いのではとか検討していただき6月中旬頃まで事務局へ届けてもらえればと思います。

○小松幸雄委員 この資料の内容はすべてが関連している。分けてしまうから膨大な資料になって時間がかかってしまう。福祉にしる産業にしる、ひとつにして考えてネットワークを作っていくないと最後までバラバラになってまとまりはしない。森林資源を活用した製材所にしてもどの程度やれるのか踏み込んで聞きたかったのであり、そうすることによって、労働力の確保にもなるし、若者が住むまちにも結びつくのかなと思って発言した。そこまで踏み込んで考えてもらいたかった。

○後藤清憲委員 八幡は生まれ故郷だが、都会から帰ってきてまだ2年経っていない。帰ってきてからは楽しく田舎の生活を送っている。魅力のある田舎というか過疎というか過疎の言葉の前に何か言葉がほしい。背中にある鳥海山の豊かな自然やアカデミー賞「おくりびと」の里など魅力あるものを過疎の上に付けたらどうかと思った。何か魅力のあるものが出来ると、お客さんも来るしにぎわいも出てくるのではないか。友人が鳥海山に来ると非常に喜ぶ。魅力のあるものをもっと発信すべきであり、商工業の欄に「首都圏との交流を生かした販路拡大」とあるが、こんなに魅力のあるものがいっぱいあるのに何故、酒田全体の19%しか観光客が来ないのかと思われる。鳥海山荘から新出の橋までの間に朝に山荘のお客さんが帰る時間帯に合わせて、その日に採れたような野菜等の販売所でもあれば良いのではと思った。魅力ある原資がたくさんあるのにそれを活用していないのが残念であるというのが正直な気持ちです。

○後藤征四郎委員 過疎法の延長期限が6年間で、計画期間が平成23年度から平成29年度の7年間になっているがどうなのか。それと酒田市の人口予測が出ているが、八幡地域だけの分を出すことは可能か。

○後藤修地域振興課長 酒田市の総合計画の最終年度が平成29年度になっており、それに合わせた形になっている。

○事務局 人口予測について、データが全国の市町村別毎になっていて八幡地域分の予測を出すのは難しい。

○池田久浩委員 山岳登山の際、事故等が発生すると山岳ガイドの責任が問われる場合があり、そうしたケースが増えると担い手がなくなるのではとの心配がある。

○事務局 資料を持ち帰って検討していただく期限は6月15日(水)とさせていただきます。

10 閉会

○池田議長 ほかにご意見はございませんか。ないようですので、閉会を副会長お願いします。

○長谷川副会長 これをもちまして、第2回の地域協議会を閉会いたします。委員の皆さま

んご苦勞様でした。